

授 業 日 程

第一部 アジアにおける人の移動の歴史的文脈

第1回 外村 大（東京大学大学院総合文化研究科准教授）・谷垣真理子（同 准教授） 10月3日

「イントロダクション」

内容：アジアにおける人の移動について考えることが今日どのような意義を持つか、いかなる問題とつながっているかを提起する。

第2回 神長英輔（新潟国際情報大学国際学部准教授） 10月10日

「日本とロシア極東」

内容：日本とロシア極東とのかかわりを、北洋捕鯨を題材に考察する。さらにコンブを事例として、中華世界と日本、ロシア極東とのかかわりを概観する。

第3回 中山大将（北海道大学スラブ研究センター 日本学術振興会特別研究員 PD） 10月17日

「樺太」からの引揚げと残留

内容：「樺太」にいた日本人（大和民族）、アイヌ、朝鮮人について、彼らがなぜそこにいたか、日本敗戦のあとの人口の再移動／残留の原因やそれが与えた影響について考える。

第4回 外村大（東京大学大学院総合文化研究科准教授） 10月24日

「在日朝鮮人社会の形成」

内容：戦前・戦中期日本における在日朝鮮人社会の形成について理解し、その歴史的・社会的文脈について考える。

第5回 三ツ井崇（東京大学大学院総合文化研究科准教授） 10月31日

「植民地統治の矛盾と在外朝鮮人問題」

内容：戦時期における植民地朝鮮社会の矛盾を在日・在満朝鮮人問題を通して理解し、その背景について考える。

第6回 李昌益（韓国・国立济州大学校人文学部教授） 11月7日

「在日济州人社会の形成と現在」

内容：戦前から戦後における济州島出身の在日朝鮮人社会の形成と現在について概観し、過去と現在の連続性について考える。

第7回 李海燕（東京理科大学工学部准教授） 11月14日

「在満朝鮮人社会の形成と現在」

内容：戦前から戦後における中国東北地域における朝鮮人社会の形成と現在について概観し、その位置づけの変容について考える。

第二部 アジアにおける人の移動の現在

第8回 羅京洙（学習院女子大学国際文化交流学部准教授） 11月21日

「コリアンの国際移動」

内容：韓国人の国際移動の現状とその政策的背景について理解し、それが現状において持つ可能性と問題点が何かについて考える。

第10回 八尾祥平（早稲田大学アジア研究機構アジア研究所助手） 11月28日

「琉球華僑社会の形成：沖縄沖縄をめぐる人の国際移動」

内容：歴史的な文脈を踏まえつつ、琉球華僑社会の形成について概観し、それが沖縄の

第9回 谷垣真理子（東京大学大学院総合文化研究科准教授） 12月5日

「移動する家族」

内容：老華僑と新華僑を軸にして、海外の華僑華人社会について概観する。その上で広東省の関元昌一族のリユニオン活動を通じて、華人ネットワークの現在を紹介する。

第11回 黄紹倫（香港大学名誉教授） 12月12日

「移動する企業家」

内容：第二次世界大戦後の香港の工業化をリードしたのは、上海人企業家であった。黄氏の先駆的研究をベースに、中国本土の企業家との比較研究を紹介してもらう。

第12回 冼玉儀（香港大学准教授） 12月19日

「太平洋を越える：ネットワークのハブとしての香港」

内容：英領植民地・香港は太平洋をこえて北米へと移動する人々にとって、ネットワークの重要なハブであった。ハブの機能を慈善団体や同郷団体を例にして整理する。

第13回 道上知弘（東京大学兼任講師） 1月11日

「香港映画の越境性」

内容：ネットワークのハブである香港は、アジアにおける映画産業の拠点でもある。映画製作を通じて、どのような人々が交流したのかを、具体的事例をあげて紹介する。

第三部 人の移動にみるアジア共同体形成の可能性

第 14 回 谷垣真理子（東京大学総合文化研究科准教授）・外村大（同 准教授） 1 月 18 日

「総括討論」

内容：全体の授業を受けて出されたレポート、各出講者からの授業を振り返っての意見等を踏まえて、受講者全員で討論を行う。

第 15 回 人の移動とアジア共同体形成の可能性に関する展望とまとめの討論 1 月 25 日

内容：佐藤洋治ワンアジア財団理事長を迎えて、現在のアジアにおける人の移動が持つ可能性について語ってもらい、これまでの授業を踏まえて受講者とともにと討論を行う。

講義日程および内容は講師の都合等により変更になることがあります。